

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況（連結）

平成 15 年 8 月 8 日

上場会社名 タカノ株式会社

（コード番号：7885 東証第 2 部）

（URL <http://www.takano-net.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 鷹野 準 （TEL：（0265）85 - 3150）

責任者役職・氏名 常務取締役 野溝 郁文

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における：有

認識の方法との相違の有無

（内容）

固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産.....年度見込額のうち当四半期分を計上しております。

(2) 無形固定資産.....年度見込額のうち当四半期分を計上しております。

法人税等の計上基準.....法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

その他影響額が僅少なものにつき、一部簡便的な手続きを用いております。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況：無

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期の業績概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		当期(四半期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 1 四半期	4,658	-	248	-	259	-	164	-
15 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	18,886		990		1,037		560	

	1 株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
16 年 3 月期第 1 四半期	10	68	-	-
15 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	35	44	-	-

（注）四半期業績の開示については、当第 1 四半期より実施しておりますので、前年同四半期の実績は記載しておりません。また、対前年同期比増減率の記載は省略しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期におけるわが国経済は、企業収益の回復や株価の持ち直しなど、一部景気に明るい兆しは出てきているものの、厳しい雇用環境にともなう個人消費の低迷等から、景気は依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの主力商品が関係するオフィス家具業界におきましても、景気の不透明感からオフィス家具に対する投資は手控えられ、当第 1 四半期におけるオフィス椅子の販売は前期比数量、金額ともに減少するなど依然として厳しい状況を脱しておりません。

一方、当社グループの画像処理検査装置分野が関係する液晶をはじめとする FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）製造装置業界におきましては、韓国・台湾の液晶メーカーにおける設備投資は継続的に行われており、PDP（プラズマ・ディスプレイ・パネル）メーカーも民生需要拡大にあわせ、パネル増産を行っているなど、業界における事業環境は好調に推移いたしました。

当社グループはこのような環境下にあつて、OEM 事業においては需要動向に左右されにくい収益体質を構築するため、合理化の推進による徹底したコストダウンの実施を図ってまいりました。

また、エレクトロニクス関連事業においては、画像処理検査装置生産体制の拡充をはかるとともに、「フォトスペーサー高さ計測装置」など液晶製造プロセスの変化に即応した製品の開発および販売活動に注力してまいりました。

この結果、当第 1 四半期は概ね計画に沿った業績の進捗であり、売上高 4,658 百万円、営業利益 248 百万円、経常利益 259 百万円、当期（四半期）純利益は 164 百万円となりました。

- (2) 当該四半期において企業集団の財政状態に重要な影響を与えた事象
 当該四半期において、企業集団の財政状態に重要な影響を与えた特別の事象はございません。

(参考1) 四半期個別経営成績の概況(平成15年4月1日~平成15年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期)純利益
16年3月期第1四半期	4,415 <small>百万円</small>	273 <small>百万円</small>	288 <small>百万円</small>	181 <small>百万円</small>

3. 平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
中間期	8,500 <small>百万円</small>	395 <small>百万円</small>	250 <small>百万円</small>	円 銭 16 21
通期	18,580	1,340	820	52 94

[業績予想に関する定性的情報等]

第2四半期以降につきましては、引き続き公共投資の抑制、雇用情勢の厳しさなどによる個人消費低迷などにより、依然として景気の先行きに対する不透明感は拭えない状況は継続すると思われま

す。当社グループにおいても、企業のオフィスに対する投資意欲拡大の途もたない状況の中、厳しい環境が継続するものと思われま

す。このような状況のもと、当社グループは引き続き、OEM事業においては思い切った合理化による収益構造の変革および新分野製品の開発・営業に注力するとともに、需要動向が好調であるエレクトロニクス関連事業においては、開発部門、営業部門一体となった受注活動と購買品コストの削減に注力することによって収益のさらなる向上を図ってまいります。

なお、第2四半期以降のOEM事業における受注見通しは厳しいものの合理化による効果の顕在化が予測されること、エレクトロニクス関連事業の好調な受注状況および当第1四半期は概ね計画に沿った業績の進捗であったこと等により、当初計画の変更を行う必要はないものと考え、中間期は売上高8,500百万円(前年同期比92.4%)、経常利益は395百万円(前年同期比65.3%)、中間純利益250百万円(前年同期比75.0%)を予想し、通期は売上高18,580百万円(前年同期比98.4%)、経常利益1,340百万円(前年同期比129.2%)、当期純利益820百万円(前年同期比146.3%)を予想しております。

(参考2) 平成16年3月期の個別業績予想(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり年間予想配当金		
				中間	期末	
中間期	8,100 <small>百万円</small>	390 <small>百万円</small>	240 <small>百万円</small>	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 -
通期	17,700	1,300	750	-	17.00	17.00

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことはお差し控えください。

以 上